川と人、人と人を結ぶ
河川レンジャーNEWS
淀川管内
RIVER RANGER
no.72
令和7年10月発行
2025秋号

地域でワンドの環境守る

みんなで取り組む



撮影地：
庭窪ワンド（守口市）
河川改修によって形成された「ワンド群」では、いきもの調査や保全活動を大学や企業のボランティアといっしょにすすめています。

出張所の窓辺から

vol.60



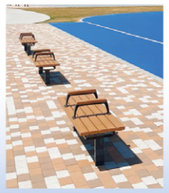


淀川管内に7つある、国土交通省淀川河川事務所の出張所から職員が管内のみどころを紹介します。
今回の担当は毛馬出張所です。

毛馬出張所管内には13ケ所の国営河川公園が設置されています。このうち鳥飼上地区では、令和7年（2025年）3月に老朽化したローラースケート場等が再整備されたもので、淀川河川公園内でここだけのスポットです。

鳥飼上地区は摂津市と寝屋川市にかかる鳥飼仁和寺大橋の右岸側上流（摂津市側）に位置しており、運動施設・芝生広場やバーベキュー広場からなる公園です。

野球場・テニスコート・陸上トラック（サッカー・ラグビー兼用）といった運動施設が充実しています。ローラースケート場は、若者を中心に利用され、賑わっている姿が見られます。



広場にはベンチが併設されていて、お子さんを見守る保護者の方の姿もあります。

また、園内に2箇所あるバーベキューエリアは、どちらも駐車場から近く、道具や食材の持ち込みがしやすいです。「運動の秋」に是非、鳥飼上地区をご利用ください。



再整備され滑りやすくなった鳥飼ローラースポーツ広場（人物イラストを合成）

いきものイチオシ 第43回

ゴマダラチョウ
（胡麻斑蝶）



桂川河川敷に生えているエノキの葉をよく調べてみると、その葉を食草とするタテハチョウの仲間のゴマダラチョウの幼虫を見つけることができます。初めて出会った時、あまりの可愛さに感動! 幼虫は晩秋にはエノキの木の幹を下り、その落ち葉の中で越冬し、春になると再びエノキの幹を登り若葉を食べて育ちます。成虫の食べ物は花の蜜ではなく樹液や腐果、獣糞など。写真は冬に三川合流で見つけたエノキの落ち葉に擬態している茶色の幼虫と、春に松尾橋下流のエノキの若葉にいた緑色の幼虫で、黒地に白のまだら模様の成虫は松尾橋下流で樹液を吸っているところです。

特定外来生物のアカボシゴマダラが本種を駆逐してしまう競合の問題が起きています。関東では人為的な放蝶があったと考えられており、アカボシゴマダラの分布が拡大しています。近年では大阪や京都、奈良でもこのアカボシゴマダラが確認されているといわれ、生息数の減少などがとても心配されているところです。危うい状況のゴマダラチョウ、生き残って欲しい種です。



樹液を吸う成虫





エノキの落ち葉に擬態するゴマダラチョウの幼虫



エノキの若葉そっくりに擬態した、春の姿



桂川出張所管内
河川レンジャー
笹口陽子

国土交通省 川の防災情報
国土交通省のサイト「川の防災情報」では、全国の河川の雨量・水位情報をチェックできます。川遊び中にお天気の変化が気になったときには、ぜひご活用ください。
https://www.river.go.jp

河川レンジャーは淀川流域を舞台に行政と流域住民をつなぐ橋渡し役を担っています。詳しくは ホームページでご覧ください。
発行責任者：淀川管内河川レンジャー事務局
〒573-0056 大阪府枚方市桜町3-32 TEL：072-861-6801（平日9時～17時）
淀川管内河川レンジャー 検索 https://www.river-ranger.jp

次号は12月の発行予定です!

※本誌掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

みんなで取り組む

地域で守るワンドの環境

川の環境を守るために、いまできること。

河川環境の中で静かな水域を形成するワンドは、生物の生息・繁殖に欠かせない重要な空間です。ワンドの役割や直面する課題、そして「維持保全」に向けた取り組みについて紹介します。


点野ワンド（寝屋川市）

「ワンド」ってなに?

ワンドとは、「明治時代」の淀川修築工事がきっかけとなってできた、豊かな生物多様性を有する水環境です。河川の本流から離れたり、一時的につながったりする静穏な水域で、魚類の産卵や稚魚の育成、生物の避難・生息場所として重要な役割を担っています。

「ワンド」の課題

外来種の侵入による生態系への影響や、流入したゴミの滞留などが課題となっており、定期的な管理が求められています。



河川レンジャーの取り組み

河川レンジャーは流域の方々とともにワンドや水辺環境の維持保全に取り組んでいます。

ワンドの維持保全には、行政や専門家だけでなく、地域に暮らす皆さんの継続的な協力が欠かせません。
清掃活動や観察会など、身近な参加から自然環境への理解が深まり、健全な水辺の保全につながります。
未来の豊かな河川環境を守るため、ぜひワンド保全の活動にご参加ください。

知ってもらうための 活動


啓発活動


生物観察会

みんなで取り組む 活動


清掃活動


整備活動

在来種を守る 活動


外来植物の防除

今後の活動予定はレンジャーHPの「参加者募集中!」よりご確認下さい。

河川レンジャー

River-Ranger | コラム 21
レンジャーが行く

河川公園枚方地区「多自然池」のこれから


木が生い茂り、ヘドロとゴミが溜まっていた多自然池


整備により、水が流れるようになった多自然池

2022年9月、私がレンジャー活動に初めて参加をしたのは、淀川河川公園枚方地区の「多自然池」で行われた川ゴミ清掃活動でした。水際にはヤナギが生い茂り、水面は流れ着いた大量のペットボトルやビニール・プラスチックごみが折り重なっている状況でした。

河川レンジャーとなった翌年、2023年7月からは、毎月第4水曜日に定期的な清掃活動を開始しました。定期的に清掃をすることで一時的にゴミはなくなるのですが、少し増水するとまたすぐゴミが溜まってしまいます。水際もヘドロ化しており、立ち入るのが危険な状態だったため、清掃活動を行いながら、現地の状態を河川管理者に報告していました。

2023年11月に整備工事が始まり、木々が伐採され、川底のヘドロが取り除かれました。その結果、留まりがちだった多自然池の水はゆっくりと絶え間なく流れるようになり、魚たちが川底を泳ぐ姿を目視できるほど透明になりました。


なごめる水辺の実現を目指して

私の目的であった「なごめる水辺」の実現に向けて、この環境を維持し、多くの皆さんとともに清掃・維持活動を続けていきたいと思っています。


枚方出張所管内河川レンジャー
岡村雅広

大塚ワンドを散策してみよう

大塚ワンドは枚方大橋上流右岸側の淀川河川公園大塚地区に隣接した所に位置します。水制工跡に2022年に6つのワンドが整備されました。



釣り人の間では知られた場所になっていますが、地域の人たちや公園利用者にはその存在があまり知られていません。

大塚ワンドには水制工跡に適度な樹木もあり、散策コースとしての魅力を秘めています。河川レンジャー活動として現時点で清掃活動や野鳥観察等を通してその魅力を発信しています。

一方でワンドは整備された後の維持管理が重要です。樹林化や外来水生植物の繁茂等でワンド本来の目的である生物多様性が維持できなくなります。将来的には地域住民や学校等と連携して大塚ワンドの散策ルートの整備や外来水生植物防除を含めた維持管理活動ができたらと考えています。

また、河川公園に来られた方が大塚ワンドに容易に近づけてその景色を楽しめるようにアクセスの整備も推進しています。ぜひ、自然豊かな大塚ワンドに一度足を運んでいただきたいと思います。現時点では淀川本川に沿ってのルートで足元も悪いので安全には充分注意をされ、複数人での散策をお願いします。


大塚ワンドでの冬の野鳥観察


大塚ワンド(高槻市)

［Column］
グリーンインフラ×河川レンジャー

Green Infra


河川レンジャー
アドバイザー
原 健二